



数か月前の事、SNSで想像力に関してにわかに物議が交わされていることがありました。無言の帰宅という言葉に返されたものが、今は話したくないのだと思うから、もう少ししたら話し合いした方がいいというコメントで、無言の帰宅という意味を丸っきりわかっていないという事が話題になったのです。これに関連して、東京スカイツリーのキャッチフレーズ「友だちと登って恋人と降りてきた」というものに対して、置いてこられた友だちが可哀そうだというコメントがあったとありました。もちろん、このキャッチフレーズの意味は、恋人未満だった男女が登った先の夜景に感動して良い雰囲気になり恋人になって降りてくるというストーリーがいかにもだけれども、スカイツリーが恋が実るデートスポットという印象を与える良いフレーズだと思うのです。こうしたことから、日本での想像力の乏しさ読解力の乏しさがしばしば話題になるのです。(あー、ガーナだけでは無いんだ。この想像力、読解力の乏しさは・・・)と妙に安心してしまったのですが、決して安心できる話しではありません。先日、6年生の算数で単位をやりました。時間、重さ、長さの単位です。もちろん算数に関する本は図書館に数冊あり、この単位の本もあります。重さの単位の時、赤ちゃんを書いた手作りカードには3200と数字が書いてあります。生徒に単位を考えさせました。もちろんmg,g,kg,tを一通り伝えてから、カードに書いてある絵の単位を答えます。どんなに数字が大きくても絵を見て想像して該当する単位を答えるのですが、子どもの答える赤ちゃんの体重3200に当てはまる単位はkgであったりtだったりするのです。逆に象の描かれているカードの数字は5、この象の重さを考えて5であったら、どんな単位が入るか考えるのですが、生徒の出す答えはmgであったりkgであったりするのです。昭和のまるでドリフターズのコントのような授業になってしまっているのですが、指導する側も答える側も至って真面目なのです。1枚のカードの絵から想像する、赤ちゃんは小さいな、象は大きくて重たいな、そう想像して考えてもらいたいのです。これらを解決するのは、やはり本をたくさん読み想像力を養う事なのだと思います。今回、年長さんクラスで「3びきのこぶた」の読み聞かせをしました。「ブロックのお家を作ったのは何番目のぶたですか？」の問いに、どの子も親指を中に入れ手を横にして四の数字を作るのです。どう見ても考えても三ではなく四なのです。年長さんは、果たして四番目のぶたを想像したのでしょうか。ThreeとThirdの意味の違いがそうさせてしまったのでしょうか。何回も読んであげる必要があります。

図書館建設サポーター 一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター KAWASHO FOODS(GULF)FZE 様

フェリシモ基金事務局様 矢東タイヤ様

